

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月14日
【四半期会計期間】	第67期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	クリナップ株式会社
【英訳名】	Cleanup Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 竹内 宏
【本店の所在の場所】	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
【電話番号】	03(3894)4771(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 専務執行役員 川田 和弘
【最寄りの連絡場所】	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
【電話番号】	03(3894)4771(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 専務執行役員 川田 和弘
【縦覧に供する場所】	クリナップ株式会社中部支社 （愛知県名古屋市中区錦1丁目16番20号） クリナップ株式会社関西支社 （大阪府大阪市西区靱本町1丁目11番7号） クリナップ株式会社生産部門 （福島県いわき市四倉町細谷字小橋前52番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第66期 第2四半期 連結累計期間	第67期 第2四半期 連結累計期間	第66期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (百万円)	49,882	54,778	104,486
経常利益又は経常損失 () (百万円)	1,095	2,256	376
親会社株主に帰属する四半期純 利益又は親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失 () (百万円)	1,286	1,572	704
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,131	1,436	787
純資産額 (百万円)	50,846	51,892	50,824
総資産額 (百万円)	82,107	83,941	80,408
1株当たり四半期純利益又は1 株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	35.16	42.95	19.26
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	61.9	61.8	63.2
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,079	3,762	1,131
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,636	1,192	2,548
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,648	240	1,562
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	17,978	19,492	17,182

回次	第66期 第2四半期 連結会計期間	第67期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1 株当たり四半期純損失 () (円)	30.14	38.88

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。
3. 第66期第2四半期連結累計期間及び第66期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第67期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社をいう。）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策によって企業収益と雇用環境の緩やかな回復は継続した一方、米中貿易摩擦の深刻化や金融資本市場の変動などの影響が懸念されております。

住宅設備機器業界におきましては、消費税増税前の駆け込み需要が見られたものの、回復基調だった持家の新設住宅着工戸数は足踏みを見せ、先行きの不透明感が増しております。

このような中、当社グループ（当社及び連結子会社をいう。以下同じ。）は、2018年9月に新発売したシステムキッチン「STEDIA（ステディア）」や、2019年2月にリニューアルしたシステムキッチン「ラクエラ」など、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、2019年6月にオープンいたしました「クリナップ・キッチンタウン・横浜」をはじめとした全国102ヶ所のショールームにてイベントを開催し、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店等の流通パートナーとの連携も深めながら、需要の拡大、獲得に努めてまいりました。

生産面では、東西の生産拠点での生産性向上、VE活動を推進し、原価低減に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高を部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S・S・CENTRO（セントロ）」は数量、金額とも増、「クリンレディ/STEDIA（ステディア）」は数量、金額とも増、「ラクエラ」は数量、金額とも増となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比11.6%増の42,690百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも増、「ユアシス」は数量、金額とも減、洗面化粧台においては数量、金額とも増となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比2.0%増の8,567百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比9.8%増の54,778百万円となりました。利益面では営業利益2,224百万円（前年同期は1,159百万円の営業損失）、経常利益2,256百万円（同1,095百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,572百万円（同1,286百万円の純損失）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の総資産は83,941百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,533百万円増加いたしました。流動資産は51,894百万円となり、4,061百万円増加いたしました。これは電子記録債権が795百万円減少した一方、現金及び預金が2,310百万円、受取手形及び売掛金が1,373百万円、商品及び製品が1,077百万円増加したこと等によります。固定資産は32,046百万円となり、前連結会計年度末に比べ527百万円減少いたしました。これは有形固定資産が211百万円減少したこと等によります。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は32,048百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,465百万円の増加となりました。流動負債は主に、買掛金が1,007百万円、短期借入金が1,060百万円、電子記録債務が850百万円増加したこと等により3,595百万円増加し、26,291百万円となりました。固定負債は主に長期借入金の減少847百万円等により1,130百万円減少し、5,757百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は51,892百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,068百万円増加いたしました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益1,572百万円、配当金の支払い1368百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の63.2%から61.8%になりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ2,310百万円（13.4%）増加して19,492百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果得られた資金は3,762百万円（前年同期比248.5%増）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が2,148百万円、減価償却費が1,610百万円、仕入債務の増加1,856百万円があった一方、たな卸資産の増加1,197百万円があったこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果使用した資金は1,192百万円（前年同期比27.1%減）となりました。これは生産設備の改修、ショールーム移転・改装等により有形固定資産の取得による支出が863百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が308百万円あったこと等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果使用した資金は240百万円（前年同期比85.4%減）となりました。これは長期借入金の返済による支出が1,786百万円、配当金の支払いが368百万円あった一方、短期借入金の純増が2,000百万円あったこと等によるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、514百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループの連結売上高に占める厨房部門の売上高割合は、当第2四半期連結累計期間77.9%、前連結会計年度78.0%となっております。消費税増税前の駆け込み需要が見られたものの、回復基調であった持家の新設住宅着工戸数は足踏みを見せ、下期においては、消費税増税の駆け込み需要の反動減も見込まれ、先行き不透明感が増している経営環境の中、競合他社との競争が一層激化するものと思われれます。このような状況下において、消費者ニーズに適宜対応できなかった場合、厨房部門のシステムキッチンの販売動向に影響し、当社グループの経営成績に影響を与えることが考えられます。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況につきましては、営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べ2,682百万円増加し、3,762百万円となりました。

投資活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ443百万円減少し、1,192百万円となりました。

財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ1,407百万円減少し、240百万円となりました。

なお、詳細につきましては、第2【事業の状況】2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】(2)キャッシュ・フローの状況に記載しておりますので、ご参照ください。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の資金は、前連結会計年度末より2,310百万円増加し、19,492百万円となりました。

当社グループは、現在、運転資金及び設備投資資金について、内部留保資金又は借入により調達することとしております。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	130,000,000
計	130,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	37,442,374	37,442,374	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	37,442,374	37,442,374	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	37,442,374	-	13,267	-	12,351

(5)【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社井上	東京都荒川区荒川1丁目50番18号	8,609	23.33
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,391	6.48
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,164	5.86
クリナップ真栄会	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号	2,056	5.57
株式会社タカヤス	東京都荒川区荒川1丁目50番18号	1,829	4.95
クリナップ共進会	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号	1,783	4.83
クリナップ社員持株会	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号	1,592	4.31
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人 株式会社みずほ銀 行)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (常任代理人住所 東京都港区港南2 丁目15番1号)	848	2.29
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	757	2.05
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	693	1.87
計	-	22,725	61.60

(注)上記の所有株式数のうち、信託銀行の信託業務に係る株式数は、次の通りであります。

(1) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

信託口	1,039千株
信託口	383千株
信託口	269千株
信託口	256千株
信託口	183千株
信託口	159千株
信託口	98千株

(2) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社

信託口	1,828千株
株式付与ESOP信託口	290千株
退職給付信託口	46千株

(6)【議決権の状況】
 【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 550,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 36,878,200	368,782	-
単元未満株式	普通株式 13,374	-	-
発行済株式総数	37,442,374	-	-
総株主の議決権	-	368,782	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、日本マスタートラスト信託銀行(株)(株式付与E S O P信託口)が所有する当社株式290,200株(議決権の数2,902個)が含まれております。
 2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
クリナップ株式会社	東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号	550,800	-	550,800	1.47
計	-	550,800	-	550,800	1.47

(注) 株式付与E S O P信託の信託財産(所有者名義「日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与E S O P信託口)」)290,200株は、連結財務諸表において自己株式として表示しておりますが、当該株式は、信託管理人の指図に従い議決権行使されるため上記に含めておりません。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次の通りであります。
 役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役 専務執行役員 購買部、CS管理部、リテール 事業企画部管掌	取締役 常務執行役員 購買部、CS管理部、リテール 事業企画部管掌	大竹 重雄	2019年7月1日
取締役 専務執行役員 経理部担当兼経営企画部、総務 部管掌	取締役 常務執行役員 経理部担当兼経営企画部、総務 部管掌	川田 和弘	2019年7月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,682	18,992
受取手形及び売掛金	3 14,577	15,951
電子記録債権	3 12,309	11,514
有価証券	1,005	1,009
商品及び製品	1,018	2,095
仕掛品	188	213
原材料及び貯蔵品	1,067	1,065
その他	984	1,052
流動資産合計	47,833	51,894
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,171	8,146
その他(純額)	13,318	13,131
有形固定資産合計	21,489	21,278
無形固定資産	2,810	2,684
投資その他の資産		
投資有価証券	5,151	5,098
その他	3,288	3,117
貸倒引当金	166	131
投資その他の資産合計	8,274	8,084
固定資産合計	32,574	32,046
資産合計	80,408	83,941

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,020	7,028
電子記録債務	6,245	7,096
短期借入金	2,937	3,998
未払金	4,590	4,183
未払法人税等	314	704
賞与引当金	1,133	1,265
株式給付引当金	249	249
資産除去債務	9	-
その他	1,193	1,765
流動負債合計	22,695	26,291
固定負債		
長期借入金	2,379	1,532
退職給付に係る負債	318	117
役員退職慰労引当金	416	416
資産除去債務	381	408
その他	3,392	3,282
固定負債合計	6,887	5,757
負債合計	29,583	32,048
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	23,833	25,037
自己株式	680	680
株主資本合計	48,772	49,975
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,521	1,477
為替換算調整勘定	4	17
退職給付に係る調整累計額	525	456
その他の包括利益累計額合計	2,052	1,916
純資産合計	50,824	51,892
負債純資産合計	80,408	83,941

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
売上高	49,882	54,778
売上原価	33,376	35,462
売上総利益	16,506	19,315
販売費及び一般管理費	17,666	17,091
営業利益又は営業損失()	1,159	2,224
営業外収益		
受取利息	8	9
受取配当金	68	72
仕入割引	134	135
その他	93	65
営業外収益合計	305	282
営業外費用		
支払利息	13	13
売上割引	204	210
その他	22	26
営業外費用合計	240	250
経常利益又は経常損失()	1,095	2,256
特別利益		
固定資産売却益	0	0
その他	0	-
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除売却損	71	19
退職特別加算金	6	4
減損損失	1	83
その他	11	0
特別損失合計	90	108
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,185	2,148
法人税等	101	576
四半期純利益又は四半期純損失()	1,286	1,572
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	1,286	1,572

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	1,286	1,572
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	188	43
為替換算調整勘定	26	22
退職給付に係る調整額	6	68
その他の包括利益合計	155	135
四半期包括利益	1,131	1,436
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,131	1,436
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,185	2,148
減価償却費	1,816	1,610
賞与引当金の増減額(は減少)	44	132
売上債権の増減額(は増加)	1,918	114
たな卸資産の増減額(は増加)	1,755	1,197
仕入債務の増減額(は減少)	798	1,856
未払金の増減額(は減少)	77	330
その他	442	264
小計	1,116	3,840
利息及び配当金の受取額	76	83
利息の支払額	15	11
法人税等の支払額	161	203
法人税等の還付額	63	52
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,079	3,762
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	722	863
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	578	308
投資有価証券の取得による支出	323	3
その他	11	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,636	1,192
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,910	2,000
長期借入れによる収入	2,500	-
長期借入金の返済による支出	1,766	1,786
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	368	368
その他	103	84
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,648	240
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	18
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,228	2,310
現金及び現金同等物の期首残高	20,206	17,182
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,978	19,492

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

従業員の金融機関からの借入金に対する保証債務は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
従業員	20百万円	従業員 20百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	1,070百万円	1,091百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、前連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形等が前連結会計年度末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	125百万円	- 百万円
電子記録債権	619	-

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
運賃荷造費・倉庫料	3,174百万円	3,208百万円
広告宣伝費及び販売促進費	1,463	1,080
給与手当・賞与	4,832	4,902
賞与引当金繰入額	723	788
退職給付費用	225	150
減価償却費	930	834
貸倒引当金繰入額	-	34
株式給付引当金繰入額	15	-

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	17,478百万円	18,992百万円
有価証券勘定	998	1,009
償還までの期間が3か月を超える債券等	498	509
現金及び現金同等物	17,978	19,492

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	368	10	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

(注) 2018年6月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式付与E S O P信託口」が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月6日 取締役会	普通株式	368	10	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

(注) 2018年11月6日取締役会決議による配当金の総額には、「株式付与E S O P信託口」が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	368	10	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

(注) 2019年6月26日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式付与E S O P信託口」が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月7日 取締役会	普通株式	368	10	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(注) 2019年11月7日取締役会決議による配当金の総額には、「株式付与E S O P信託口」が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、住宅及び店舗・事業所用設備機器関連事業とその他事業を行っておりますが、報告セグメントは単一セグメントであり、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	35円16銭	42円95銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	1,286	1,572
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	1,286	1,572
普通株式の期中平均株式数(千株)	36,597	36,601

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 普通株式の期中平均株式数については、自己名義所有株式分を控除する他、「株式付与E S O P信託口」が所有する当社株式(前第2四半期連結累計期間 294千株、当第2四半期連結累計期間 290千株)を控除して算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年11月7日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次の通り決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....368百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月2日

(注) 1. 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

2. 配当金の総額には、「株式付与E S O P信託口」が所有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

クリナップ株式会社

取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 川崎 浩 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小川 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているクリナップ株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、クリナップ株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。